昭和15年5月1日（水）

快晴。午後葉書受取りに行く、流汗。矢張り気温、日中熱し。朝電報フツにて、森田氏に宛て来否を照会す。秋永鶴居局長よりも、女学校卒業適任者推薦あり。何れとも回答を要することとなりしに由る。正午近く返信「明日立つ頼む」とあり。又大連の成子さんより無事着の電報あり。久子より恩給3, 27差引かれたりとして、申告用紙同封あり。巖来局。熱三十七度前後、大分軽快の為知あり。老婆のこと色々批評あり。完全を求むる心には、不満も多しと窺はる。

昭和15年5月2日（木）

税務署より申告書の返房しあり。二郎より手紙。後藤寺の母を東京迄迎え、序でに道子を訪ねたるに、道子喜び泣くと。五円呉れたる由。是れは澄子に来たりし道子よりの手紙による。兎に角、道（さすが）に兄妹なればこそと思はる。猶、澄子と一緒に東京に来て呉れとあり。八時まで事務執る。此の日快晴。ミワ氏等風呂行き。森田氏、午後0時過ぎ来局。為替の西牟田氏の傍らに見習ふ。此夜夕食を出せしも食はず、強いて食べさす。西牟田氏と同行、同氏宅に行きしものの如し。此日藤田湯休み。

昭和15年5月3日（金）

九時まで税務署行き。申告を税務署に提出すべきものは、商売をする者のみなりとあり。此の日薄曇りなるも、時に陽射しあり。森田氏自炊せぬことに対し、西牟田氏より色々話を聞く。余は森田氏に直接質問したるも、唯泣くばかり、要領を得ず。仍て西牟田氏の意見に随って、八屋より通勤を認むることとせり。夕食出せしも食はず。非常

に暖かく流汗を催す。夜半冷ゆ。

昭和15年5月4日（土）

朝降雨、午後より曇り。一時近く葉書受取りに行く。保険費391受取り。内2円、池永国子保険料未払い分を立替ふ。冷氣頓（とみ）に増し、綿入れ取出す。

昭和15年5月5日（日）

此の朝猶冷ゆ。快晴なるも風強し。午後も冷ゆ。便所掃除。西牟田氏ら不来。巖来局。送付書催促し来れるも、放送局より未着の旨通知。森田氏より頂きたる千鳥饅頭を一列食べ、其の代換に丸房露十ヶ50銭にて買ひ来たり。内五個補足し、六時巖宅に赴く。巖両児を負ふ。愛子熱稍（やや）減退の由。恰も医師往診に来たるに会す。其の帰りを送りて、玄関に挨拶す。少時して辞去。途中名札を拾銭にて調製し貰い、塵取り搜索す。気に入りたるものなし。賑れば野口氏、母堂と何か話して居る。南京豆、嘗て求め置きしものを取出し頂く。半分残す。野口氏にも少し許り頒與す。可なり冷氣。夕方便所のガラス掃除す。

昭和15年5月6日（月）

快晴。二十分間、便所入口の日向に陽光を浴びたり。甚十郎氏より書留15送金あり。母堂名義にて貯金することとしたり。此日森田氏、為替現金21,98不足の儘、賑宅。其の後始末は全部野口氏に課せられ、遅くまで調査に没頭の姿は気の毒に不堪。

昭和15年5月7日（火）

曇り。此の日反対に拾余円剩る。昨日の不足額、切手より補填して貰ふ。冷ゆ。

昭和15年5月8日（水）

曇り、朝髯剃る。山本氏来局。公会堂に於ける町村会に貯金奨励の為、逓信局より出張員の説明ありと云ふ。公会堂にては誰も来て居らず。此の朝下郷局長臨局。今日の会合に、公会堂に出席の要否を尋ね辞去さる。ミワ氏公会堂に電話し、鶴居に電話し、漸く会場が市役所会議室たること判明。十一時、余市役所に至りしに、既に部内者は退散後、空しく飯局。ペン三錢五本、水筆拾錢及び七錢を前者一後二、鉛筆拾錢二本、計59錢求む。此日合同運送店落成、其の式典を挙げ、町内に対し湯呑み一、紅白餅一重、菓子折等配給。湯呑みを除き、全部局員に分與。此の日も七時過ぎまで不都合、居残り。

昭和15年5月9日（木）

晴れ。下毛、宇佐両郡整理区内従事員、中津局に集合。所得税改正法の講習会開催。十時野口氏と出席。十時半開会。逓信局より出張員、税務署より直税課長臨席。四時過ぎ飯る。弁当配給あり。余は正午飯局せんとしたるも、弁当の準備せし故、食べて呉れとのこと、不得已閉会まで居残る。切手葉書持飯る。奥の価格表記、机の奥にミワ氏に依り発見さる。芸妓（げいぎ）組合世話人より、愛国貯金団体51名、貯金を申出づとの報あり。ミワ氏数回、代表者宅を訪はる。夜母堂と湯に行かる。夜十一時まで、野口氏為替の後始末す。我等も亦眠ること能わず。事務室にてミワ氏と仕事す。

昭和15年5月10日（金）

晴れ。此の朝より野口氏を為替係とし、他の二名を郵便に交代せしむ。この月三日、夕方玄関扉を自転車にて硝子一枚破損し、弁償したる人来たり。小料理屋の女将に対し、警察署長より貯金せしめることを女将に命令あり。早速取り計らふこととしたるやにて、さてこそ先日よりミワ氏と電話、又は直接世話人たる同氏の許に、屢々往復せし所以なりし。其の世話人を其の人とは知らざりし。不取敢、申込書を作成、判を押して貰ふ。午後より貯金預け入れ申込書の判を必要とする（抹消の部分に認印を要するもの）某氏を訪ね、漸く其の家を捜し当てたるが、福岡より最近移転し来たりしと云ふ主人公は、居合いの名人なりし由。従軍して帰還し病没せし為、親戚を便りて此の地に来たりし如し。色々追懐話に同情し帰局。夜、南京豆を頂く。電報七時過ぎ受付けのもの、西牟田氏九時退局まで失念。駅より電話し、野口氏措置に関し余に尋ね来る。乃ち500番に電話し、対手を呼出し受信せしむ。夜暖かなり。

昭和15年5月11日（土）

晴れ、後曇り。気温上昇。午後、葉書を中津局より持来る。例の料理屋の規約貯金、此の朝持来る。新聞を半ば読みかけ出局。取扱ふに、判不明瞭のものあり。印鑑覽に押捺すべき名義人印影を、氏名下に押捺したる為、再調を要するに至りしは、余の不行届きなりし。後刻ミワ氏を煩わし、再調方懇示せしめたるに快諾し呉れたる由。為替野口氏扱いとなり、久方振りにて早く片付く。一類の再検査は余の役目となれり。然るに郵便の方は不相変、

不符合にて、九時過ぎまで居残る。印掃除ミワ氏。木灰に湯を入れ、予て余の希望通り爰に実現、難有し。

昭和15年5月12日（日）

雨、朝の間降る。一時間弱遅く起床。ベルの音も夢中で過ごす。其の埋合わせではないが、便所掃除す。松木氏よりの手紙、一週間振りにて取り出す。同氏は内地に帰還、大使館付きとして近日再渡航の由。上等兵の恩給を有する由。此の朝、巖来たり。婆さんの問題より、女中払い底を云為す。目的は再び野口氏を借りる魂膽と察し、同氏の為替係として一日も放すべからざる重要地位に在る理由を述べ、彼の謂はんとする目的を封ず。午前中、西牟田氏森田氏来局。野口氏洗濯。午後より余留守居。母堂、ミワ氏、野口氏共外出。松木氏に手紙書く。六時近く一行販宅。土産に南京豆五合25求め来らる。活動は割引券にて30銭、野口氏分をも出して呉れたる由。南京豆も同氏に遣る。

昭和15年5月13日（月）

報国債券、要求の三分の一送付越し。乃ち拾円200に対し60、五円100に対し30、七時前より多数詰め掛け、九時の到着時まで数十名となる。十分間にて売り切れ。金を受取らず十円券を交付したるものあり。後より金を持来したる為、欠損を免れたり。資金請求に中津局に至りしに、竹折主事の語る処に依れば、債券を掏（す）られたる者あり。大騒ぎを演ぜりと。同局も三分の一弱要求に対し、交付ありしに過ぎざる由。快晴、蚊が出る。料理屋組合の貯金、41口整理を了し報告書作成す。世話人を結城豊蔵と云ふ。西牟田氏六時販宅。森田氏残る。

南京豆残り分頂く。年金受取。

昭和15年5月14日（火）

快晴。窓口閑散。此の朝、西牟田氏来局。午後より森田氏来る。中津局に資金請求。切手類は葉書なき為、ミワ氏をして受取りに行かす。此の朝、結城氏に貯金通帳を交付したるに、同氏は名義人に配達さる。自転車、前夜盗難に罹りし由にて、徒歩にて配達さるる由。此の夜、野口氏に頼み、母堂を伴ひ入浴に。ミワ氏神棚掃除。

昭和15年5月15日（水）

曇り、後降雨。午前中西牟田氏、午後より森田氏、電信為替800円を連にせず一通として取扱ふ。国子さん来たり。立替分二円持参。貯金通帳本日到着の旨、申出あり。母堂、余の為に味噌を作り下さる。此の朝、ミワ氏教会へ五時出発。昨日より気温降下。ミワ氏昨夜手紙書き、十一時過ぎまで起きて居る。朝も割合早かりし為、夜に入り頗る睡きものの如し。

昭和15年5月16日（木）

曇り。午後晴の予報を裏切り、雨模様となる。ミワ氏に年金、逓信局より回付越せり。西牟田氏、午後四時三十分退局。冷氣多少緩和。夜柏餅求め来られ、一つ頂く。南京豆、余の分頂く。

昭和15年5月17日（金）

朝快晴、次第に薄曇り。葉書を受取りに、中津局行く。汽車時刻表30求め来る。気温再び低下。外国為替受取人、大木慶次郎を大木慶治郎と記載せし為、事故照会あ

り。認印を要するを以て同人の所在を尋ね、葉書取りに出局の序でに、集配手溜まりに至り、尋ねて判明。帰局して再び出発。抹消部に認印を貰ふて帰る。六時頃髭剃り、明日より別府の三等局長会に臨む為。

昭和15年5月18日（土）

晴れ。午前七時三十六分、列車にて出発。多数の同僚あるを見掛く。九時五十分公会堂着。午前十時十五分開会。逓信局長、監督課長以下、及び飯盛別府、安藤大分各局長、工務課出張所長、簡保書記、放送協会員等多数あり。諮問案討議に先立ち国歌合唱、東方遙拝、黙禱等の行事あり。午後より愈々問題の討議に入る。委員を選定して答申案を練ることとし、議長より夫々指名あり。本年は幸ひに指名に洩れたる為、責任の軽きを覚ゆ。宴会後、帰宅し得ることを得るに至れり。昼食は食堂改築工事中、会議室にて済ますようとのこと。40弁当を注文する余儀なきに至る。一時、松下君挨拶に来る。此の序でに道子の問題も話し、平素の好意を感謝したり。宿泊所二條館を指定しありしも、都合に依り田浦旅館に変更の旨、下毛郡部会に通知あり。猶、宴会代補助二円の外、各自四円徴収のこととなる。会場は例に依り鳴海とす。午後四時五十分頃閉会。余は市内を散歩。椎茸わさび漬け一円を求めたり。六時半会場に至る。容易に始まらず。七時二十分漸く着席。開会は七時三十分。あわよくば、七時二十分発列車にて帰宅する積もりの処、遂に九時五十分終列となる。八時二十分退場、駅にて休息。九時五十分定時乗車、空席多し。午前0時5分到着。裏口より上る。庭の木材、取除かれあり。此日隣家の若者に依り、除去されたるものの如し。ミワ氏、九時の汽

車にて余の到着を予想し、駅に迎えに行ける由。

昭和15年5月19日（日）

晴れ。例刻乗車、九時五十分公会堂着、同時刻開会。一つ松局長遅れて来る。昨宴会席には不参加。何れにか沈没せしものと見ゆ。諮問案に対する答申案朗読、萬場異議なく承認。次いで協議案を可決し建議案に移る。午後0時半より座談会を開催の由なるも、出発時間の関係あり、抜け出して飯。一時の汽車に乗る。博多まで2, 80。中津にてミワ氏待居らる。弁当の外、土産まで頂く。中津までは左程混雑せざりしに、次第に混合ひ、椎田にては貝拾い連中多数乗込み、駅々整理に努めたるも、荻田にては多数の積残しを見るに至る。小倉にては立ち往生させられ、折尾まで動きがとれぬ始末。折尾にて漸く座席を得たり。弁当を頂きしも食ふこと能わず。折尾に行きては後一時間、別に空腹を感ぜぬ故、其の儘持込む。恰も鮎飯造り、大量残りあり。海老巻を頂き肴もあり。弁当飯は煮直し、お味噌に再製す。

昭和15年5月20日（月）

快晴。物置小屋の整理に、裸体となり塵埃にまみれ働く。久子より活動券提供されしも不行、遂に自分一人で見に行きし如し。余之が整理に五時過ぎまでかかり、金槌やゴム線等を取り出したり。此の日はこんなこととして過ごす。

昭和15年5月21日（火）

快晴。昨年金受取り、飯りに古物屋に寄り、例の抱え鞆を尋ねたるも、売り切れとなり別の品が陳列されあり。十二円と称す。感心せぬので其の儘、値踏みもせず帰り

しが、朝吹氏に何と答弁すべきかと思ひ煩ふ。澄子、夏蜜柑四20求め来たり。二つ頂く（以上20日分）。此日、久子名島へ貝拾いに行く。前日余の同行を促し、余り熱心に誘ふ故、煮切らぬながら曖昧な返事をなし置きたる分、今朝に至り、退引ならぬ場合を想像して閉口し居りたるが「お父さん行かぬともよろし」と云ふ故、やっと安神せり。角の家の娘と、昨夜約束が出来たらしく、今朝十時、木綿袋と風呂敷を抱え出発。かくて午後五時になるも販らず。澄子は久子の貝を夕御飯のお数に待ちつつ、遂に五時半、待ちきれず食べ終わりぬ。六時久子販る。両手に抱え切れぬ程の容積を提げ、鼻高々の態。余は貝の数より人の数の方が多い位、沢山の潮干狩り連あるに、お数程漁れるものかと思ひ居たる折とて、大いに賞揚しやる。此日は水に漬け置きたり。置き台、膠（にかわ）にて修理したるも不完全にて、却って破損を拡大せしむ。スリッパの修繕は成功せり。

昭和15年5月22日（水）

晴れ、日中暖かなり。蒲団陽に乾かし、毛布類は澄子に乾かして貰ふ。前日より日誌書き、其の間に手紙の返事をも書く。去る十二日、一燭園光友会の案内には、正午0時30分、博多築港停留所下る、志賀島行き汽船会社集合、西戸崎星野病院療養所托鉢とあり。洵（まこと）に結構な思付きなりし。夜半蚊帳吊る。

昭和15年5月23日（木）

晴れ、後薄曇り。日誌も漸く書き終わらんとする際、十一時、広瀬末一氏来宅。町総代に尋ね判明せりと云ふ。二階に請じ昼飯を出す。午後三時頃、澄子余を招き、外

出して夕飯を済まして来るべき旨を以てす。余の返事が煮切らぬ為か、何か買い物に兩人共出掛く。それとも知らず、広瀬を連れて三時半より出掛く。後にて知る。久子が靴がない、泥棒が持って行ったと見へる、困ったことになったと当惑する。澄子は夕飯の準備に多忙。或いは外出したかも知れぬ、二階に行ってみよと云ふ。久子密かに二階に上がる。誰も居らず、やっと安神。それにしても、お父さん髯も剃らず髪もつまず、着物も平素着の儘にて、何としたることかと心配して居たと云ふ。余も外出を薦めつつも、当惑して居ったらしい。夫れ故、無理にも外出を強ゆることなく、準備に着手したらしい。さて余等は、岩田屋にて定食1,00にて頂き、西公園下車、水上公園を通過して高等学校前より乗車、帰宅。此の夕、広瀬氏を澄子が案内、入浴券を交付、自分等も入浴。帰りに夏蜜柑四、20求め来り、広瀬氏にも遣る。夜、蚊遣香を持来す。昨夜は初めの間は風強く、窓を開放したる為、蚊も見ざりしが、夜半風歇み蚊が出現。気、苛立ち睡られず。遂に蚊帳を取り出し吊る。此夜は階下の蚊遣香の臭い、自然二階に波及。蚊は遂に出でず。

昭和15年5月24日（金）

朝降雨、大降りと云ふ程にはあらし。余は朝飯階下にて済ます。広瀬氏、優良事務員の南洋行き推薦方依頼あり。十時、福岡局博多局等を見学の予定にて出発。洋傘所持、バス停留所まで送る。雨は午後歇む。多少冷気を感じず。昨、正岡さん南洋の咄を聴きたしとて、澄子と少時二階に来る。今日晴天なれば、名島の無線を見学に連れて行く約束なりしも、澄子は行かぬと頑張る。客来の為、向上誌等読了し能わざりしを取返す積もりで、スピ

ードを加ふ。

昭和15年5月25日（土）

曇り、冷氣。久子外出。砂糖を持来る。藤岡氏筆禍離職、上京の由。本日出発の趣なり。砂糖は貯金局に勤務の同氏弟に依りて、持来たりしものの如し。澄子も外出。パン木村家より求め、余にも数個持来す。此夜八時過ぎ、突然秀夫二階に来る。二郎拘引の旨、大毎に掲載ありしとの報を以てす。午後十一時過ぎまで色々話す。神に遠ざかる者は行詰まらざるを得ず。茶菓子皆土産に遣る。久子後より、皆遣るでないと云ふ。余、遠い所を態々為知に来て呉れたものを、その位のことをしてやらなければ・・・

昭和15年5月26日（日）

久子友達と出て行く。道子より手紙あり。二郎の問題、詳細認めたり。貢氏三日間許り炭坑の見学までやり、時計を土産にやりたる由。其の翌朝、警視庁警部によりて拘引、道子貢氏と相談、差入れに現金拾円、外に着物等色々数多く持行きし由。朝余便所掃除す。十時過ぎ余外出。ピーナツ40九十匁、味噌煎餅百匁38、足袋針二本4、明日の準備す。痰壺掃除せり。大体、半曇り半晴れ。朝剃刀研ぎ、理髪髯剃る。七時久子未だ販らず。七時三十分頃販宅。苺摘み土産持参。遅く販りしを注意せしが、恰度澄子不在、階下に至るに苺をハンカチより取出し居れり。御馳走になりたり。夜半蚊帳吊る。

昭和15年5月27日（月）

朝髯剃りて貰ふ。八時四十分、鮭桶、金槌、砂糖、味噌

煎餅、足袋針等の外、余の夏物持参。バス及び電車を利用。九時駅着く。汽車賃1, 80。満員なるも、幸に座席を譲り呉れたるあり。筑紫高女の遠足連中なり。定時より遅れて到着。ミワ氏迎えに来て呉る。晴れ、時々曇り。仕度を取り出勤、夜まで勤務。蚊居る。是永母堂より菓子振舞はると。

昭和15年5月28日（火）

曇り、時々晴れ。午後葉書の中津局より持来る。汗出づ。中野氏余に挨拶す。庭内に躑躅花及び草花移植しあり。殺風景の観を免るるを得たり。夜蚊帳取り出す。味噌煎餅、局員に、午後四時過ぎより茶話会に提供す。前日は永母堂より貰ひし饅頭は、大部分余等の為に貽（い）せし礼心にも因る。此日ミワ氏、町内酒銭集金。

昭和15年5月29日（水）

曇り。秋永鶴居局長臨局。幹部会出席の為、大分に赴く途中立寄らる。二十七日家賃払ふ序でに、東京より到来の羊羹一本、毎度花を贈らるる礼に答ひ持参。これにて家主店子間の情義は、余程濃（こま）やかになりたる観あり。夜幾分残りし味噌煎餅を頂き閑談す。冷氣。

昭和15年5月30日（木）

快晴。昨夜西牟田氏眩暈。子供の下駄の鼻緒据え換ふ。朝の間可なり冷ゆ。後、気温次第に上昇。蒲団乾かす。ミワ氏も来られ、同氏分も陽に当てたり。

昭和15年5月31日（金）

晴れ、時々曇り。午前中切手請求。葉書なき為、余行

かず。午後資金請求あり。午後六時よりミワ氏と外出。武蔵屋本店に至り、ウイトレモン菓子150分二ヶ求め、途中戸棚23円と云ふを21円にて求め、明日届けしむ。帰るさ莫産壹円にて求め、鍬を2, 30と云ふを2, 10に割引かしむ。承知せぬ為、買わずに販る。饅頭一ヶ四錢を拾ヶ求め、皆に分配す。水屋此の夜運び来る。乃ち支払ひやる。夕方より曇る。十時過ぎ寝る。